

スタニスラフ・ブーニン

ピアノ・リサイタル

伝説となったショパン国際ピアノ・コンクール

優勝から40年——

15年ぶりに名古屋に帰ってくる！

Stanislav Bunin

Piano Recital

ショパン

エチュード op.10-3 「別れの曲」 ほか

F.Chopin : Etude op.10-3 "Chanson de L' adieu"

2025

11/16 (日) 14:00開演
(13:30開場)

愛知県芸術劇場コンサートホール

S:¥15,000 A:¥12,000 B:¥9,000 C:¥6,000 U26:¥2,000

U26:公演当日26歳以下の方対象。入場時に年齢を証明できるものをご提示ください。

※未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断りいたします。

プレイガイド

Chuチケ:052-308-8282 (平日11:00~17:00)

チケットぴあ:(Pコード:304-382) e+(イープラス) 芸文プレイガイド:052-972-0430



お問い合わせ

中京テレビクリエイション ☎052-588-4477 (平日11:00~17:00)

※プログラム等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。



主催:  中京テレビクリエイション



1985年第11回ショパン国際ピアノコンクールで若干19歳の若さで優勝したスタニスラフ・ブーニンは圧倒的な演奏で世界に衝撃を与え、“ブーニン現象”と呼ばれるほどの一大センセーションを巻き起こし、クラシック音楽というジャンルを超えて人気を博した。

10年に及ぶ闘病生活を乗り越え2023年に復帰。その模様を追ったドキュメンタリー番組は大きな感動と反響を呼び、続編が放映されたほど。

母の死、怪我、病気での足の切断など生きる気力を失っていたブーニン。

でも音楽への愛を取り上げることは神様でもできなかった！

美しい音、深みを増した音楽表現、そして彼の根底に流れるピアノイズムが、いまここに復活する——！

Stanislaw Bunin

スタニスラフ・ブーニン (ピアノ)

1966年モスクワ生まれ。リヒテルやギレリス等の巨匠を育てた名教育者G.ネイガウスを祖父とするピアニスト一家で育つ。

1983年ロン＝ティボー国際コンクールに17歳で優勝。1985年第11回ショパン国際ピアノ・コンクール優勝。EMIと専属契約を結び10枚以上のCDを録音。1999年ヨーロッパにおける演奏活動が高く評価され“Viotti d'Oro賞”受賞。1999年から全8回におよぶ〈ショパン・チクルス〉開始。国内ではワルシャワ・フィル、プラハ放送響、ロンドン響、ベルリン響、N響、読響他数多くのオーケストラと共演。

1988年のアルメニア大地震をはじめ、阪神淡路大震災、奥尻島地震などの直後に被災した子供たちの元を訪れチャリティコンサートの開催やピアノを寄付するなどの支援活動を行う。

2010年ショパンコンクール優勝25周年を記念しユニセフへのチャリティ・ガラコンサート開催。更に8月にはワルシャワで、アルゲリッチ等も参加し1ヶ月に亘って開催された「生誕200年ショパンフェスティバル」の最終日に出演、音楽祭を締めくくった。演奏後の拍手は鳴り止まず、満員の聴衆を魅了した。2011年7月には東日本大震災で孤児となった子供たちの為に、中村紘子、山下洋輔両氏を迎え「S.ブーニン・チャリティ・ガラ・コンサート」を開催、収益金はすべてあしなが育英会に寄付。2012年4月、NHK「TOMORROW beyond 3.11」に出演し、被災地・仙台三桜高校音楽部と共演。7月、北朝鮮による拉致被害者家族連絡会を支援するコンサート開催。12月にドイツ・ベルリンフィルハーモニーホールにてベルリン響とシューマンのピアノ協奏曲を共演、大好評を博す。2013年より闘病のため演奏活動を一旦停止。

2022年6月八ヶ岳高原音楽堂でのリサイタルで復帰。同年秋にNHKBSプレミアム「それでも私はピアノを弾く〜天才ピアニスト・ブーニン9年の空白を越えて」が放送され、2024年1月1日に同番組の続編をNHK総合、2月には特別編がNHKBSで放送され大きな反響を呼んだ。

2023年11月から2024年1月にかけて待望のリサイタルツアーを東京・新潟・長野・埼玉・大阪・山口の全国6カ所で開催。2024年7月には静岡、同年秋からは東京、札幌、岩手、長野、高崎、岐阜、大阪、福岡でツアーを開催、成功裡に終える。

